

# 環境白書の発刊にあたって



新型コロナウイルス感染症からの経済回復に伴いエネルギー需要が拡大する中、令和4年に入ってから、ロシアによるウクライナ侵攻により、世界のエネルギー情勢は混迷を深め、エネルギー価格が上昇するなど、改めて私たちの暮らしや産業を支える土台が脆弱であることを認識せざるを得なくなっています。

このような国際情勢の大きな変化など、歴史的とも言える社会の大きな転換点を迎えている中で、京都府においては、府民の皆様が、安心して豊かに暮らし、将来に向かって夢を抱いていただくため、令和元年10月に策定した府政運営の羅針盤である京都府総合計画を1年前倒して改定し、今年の4月から新たな総合計画をスタートさせることといたしました。

改定した総合計画では、概ね20年後の令和22(2040)年に実現したい京都府社会の姿として「一人ひとりの夢や希望が全ての地域で実現できる京都府をめざして」を掲げた上で、将来像の一つに「環境と共生し安心・安全が実感できる京都府」を提示し、その実現に向けたビジョンとして「共生による環境先進地・京都の実現」を掲げております。

このビジョンに向けて、重点分野として「脱炭素社会の実現に向けた実行力のある温室効果ガス削減の取組の推進」、「地域の再エネポテンシャルの最大限の活用」、「廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用の取組促進によるゼロエミッションな社会の構築」、「多様な主体の連携による生物多様性の保全と継承、自然環境の保全と創出」を掲げ、オール京都体制で実行力のあるカーボンニュートラルに向けた取組を進めることで、「2030年度温室効果ガス排出量▲46%京都チャレンジ」の実現を目指すとともに、京都の里地里山の保存・利活用を進め、優れたまちなみや景観、自然環境、生活環境を保全・創出するなど、人々の暮らしと自然が共生する地域社会の実現等を目指すこととしております。

ここ京都には、長い歴史の中で紡ぎ受け継がれてきた豊かな文化をはじめ、多彩な資源や大学・研究機関の知恵、多様な企業の集積など、京都ならではの「力」があります。府民の皆様と手を携え総「力」を結集し、府内全ての地域が活力にあふれ、誇りの持てる新しい時代の京都を築き上げたいと考えています。

この白書では、「京都府循環型社会形成計画」及び「京都府食品ロス削減推進計画」をはじめ、京都府の環境施策の状況等を広く御紹介しております。多くの皆様に御活用いただき、今一度、環境の大切さについて考え、環境を守り育てる取組を推進していただく際にお役に立てば幸いです。

令和5年2月

京都府知事 西脇隆俊